

第6章 3. 西ヨーロッパ中世社会の変容 c. 中世都市の自治

⑦ギルド内の身分秩序…[1 親方]→[2 職人]→[3 徒弟]

⑧大富豪の出現 [4 メディチ]家(フィレンツェ=イタリア)
→[5 ルネサンス]の保護者、教皇も輩出
[6 フッガー]家(アウグスブルク=南ドイツ 鉱山王)
→[7 皇帝]に融資し、その地位を左右しうる。

d. 封建社会の衰退

①貨幣経済の発展→領主の貨幣への要求増、[8 賦役]を廃止し[9 直営地]を農民に貸し出す
↓
賦役(労働地代)から[10 生産物]地代(貢納)、[11 貨幣]地代へ
→農民は生産物を[12 販売]し貨幣を蓄積＝農民の地位向上へ

② 1348 年頃 [13 黒死]病の流行(人口の1／3が死亡)→農村人口の激減＝農村の荒廃すすむ
↓
領主は農民の確保のために身分的束縛をゆるめる＝農民の地位向上→[14 農奴解放]の動きの進展
↓
イギリスを中心に[15 独立自営農民]への成長([16 ヨーマンリ]とよばれる)

③領主…14世紀後半、収入減による経済的困窮→搾取や身分的束縛の強化を図る([17 封建反動])

ア)これに反対する農民反乱の発生→18_ 以上の農民への負担強化を困難にする
[19 ワットタイラー]の乱(イギリス)、[20 ジャックリー]の乱(フランス)
ジョン=ボールら参加
イ)エルベ以东→賦役の復活など領主権の強化実現([21 再版農奴制])

農奴解放…農業生産力が増す中で、農民が[22 賦役]という領主の直接的支配から解放され、農業経営の中心になっていくこと。13～16世紀にみられ、死亡税や人頭税が廃止ないし縮小し、[23 領主裁判]権もしだいに弱まり、領主の独立性がうしなわれていく。

④騎士(下級貴族身分)・中小諸侯→国王や大諸侯による所領の没収、戦術の変化([24 火砲]の使用)による役割低下→没落進み[25]をとるだけの地主へ

国王→国内市場の統一をのぞむ[26 市民(都市)]とむすび[27 諸侯]をおさえ、[28 中央集権化]をはかる＝貴族らを屈服させ[29 宮廷貴族](廷臣)化する。
イギリスやフランスで顕著→邪魔者は諸侯と教会

e. 教皇権の衰退

①教皇[30 ボニファティウス 8 世]と、フランス王[31 フィリップ 4 世]が、聖職者への課税をめぐり対立
→フランス王に教皇は逮捕され、憤死([32 アナーニ]事件 1303)
↓
(の屈辱)

② 1309 フィリップ4世は教皇庁を南フランスの[33 アビニョン]に移す。→以後、約70年間、教皇はフランス王の支配下におかれる。 ([34「教皇のバビロン捕囚」] ～ 1377)

教皇のバビロン捕囚 … 14 世紀初、教皇庁がフランス王[35 フィリップ 4 世]によって南フランスの[36 アビニョン]に移され、以後 1377 年までの約 70 年間[37 フランス王]の監視をうけるようになったできごと。これにより 38 教皇の権威は大きく低下する。

③ 1378 教皇のローマ復帰。その直後アヴィニョンで別の教皇が擁立される
→教皇が2名となる (教会大分裂([39 大シスマ] ～ 1417)

教会大分裂… 1378 年、「教皇のバビロン捕囚」がおわり、教皇が[40 ローマ]に帰ると、フランス勢力の支持のもとに[41 アビニョン]に別の教皇が擁立され、複数の教皇が存在するようになり、教会の権威はいっそう低下した。1417 年の[42 コンスタンツ]公会議までつづく。

非常に強い権威をもっていた教皇も[43 十字]軍のたびかさなる失敗や[44 王権]の伸長の前にしだいに衰えはじめた。[45 14]世紀はじめ、教皇[46 ボニファティウス 8 世]は聖職者への課税をめぐつてフランス王[47 フィリップ 4 世]とあらそったがフランス王に逮捕されそのショックのあまり死亡した。これを[48 アナーニ]事件という。
さらにフランス王は 1309 年教皇庁を南フランスの[49 アビニョン]に移し、以後約 70 年間、教皇は仏王の影響下におかれることとなる。これを「教皇の[50 バビロン]捕囚」またはアビニョン捕囚とよぶ。1378 年教皇がローマに帰るとこれを認めない勢力がフランス勢力のもとにアビニョンで別の教皇を擁立 1417 年の[51 コンスタンツ]公会議まで複数の教皇が存在することとなった。これを[52「教皇のバビロン捕囚」]という。

④カトリックの教義に対する疑問
ア)14世紀 イギリスの[53 ウィクリフ]…[54 聖書]主義を唱える
→弟子のジョン=ボール、[55 ワットタイラー]の乱に参加
「アダムが耕しイヴが紡いだとき、誰が貴族であったか」
イ)15世紀初 ベーメン(チェコ)の[56 フス]…教会制度を批判→破門される

⑤[57 コンスタンツ]の公会議(1414 ～ 18)

コンスタンツ公会議… 15 世紀初頭(1414 ～ 1417)教会の権威低下にたいして[58 皇帝]や各国の国王らが中心になって開いた会議。[59 フス]を処刑するなど教会への反対派を弾圧するとともに[60 教会大分裂]を終了させ教皇を再統一させた。

ア)[61 教会大分裂]を終了させる

イ)[62 フス]を処刑→かれを支持する[63 ベーメン]の人々＝フス戦争を起こす。

教皇権の衰退と並行してカトリックの教義自体への疑問もうまれた。14世紀、イギリスの[64 ウィクリフ]は[65 聖書]主義を唱えて大きな影響をあたえ、15世紀初め[66 ベーメン]の[67 フス]もそれを受け教会制度を批判した。
こうした動きに対し 1414 年から 18 年にかけて[68 コンスタンツ]で宗教会議を開かれ、教会大分裂を終結させるとともに、[69 フス]を処刑し、教会勢力の立て直しを決めた。